



箱根ジオパークとは

Hakone Geopark

ジオパークとは地球活動の遺産を主な見どころとする自然の中の公園です。ユネスコの支援により設立された世界ジオパークネットワークにより、世界各国で推進されています。箱根火山は、世界的に見てもたいへん有名な火山です。豊かな自然と密接した歴史があることから、まさにジオパークに相応しい地域と言えます。

この地域は、伊豆・小笠原弧が本州弧に衝突したプレートの境界域に位置すること、その中心である箱根火山が、南北にのびる天然の障壁をなしていることです。箱根火山は、その北に連なる足柄山地・丹沢山地をはじめとする*フォッサマグナ地域と、その南に連なる伊豆半島から伊豆・小笠原諸島の自然をつなぐみに位置します。



北と南をつなぐ自然のみち



東と西をつなぐ歴史のみち



日本の歴史を形作ってきた足柄道や東海道は、東西を結ぶ大動脈です。そして、戦国時代の小田原城や石垣山一夜城、中世から始まり江戸時代に隆盛を迎えた石材採掘、江戸時代の箱根関所跡などは、かつてあった東西の摩擦や緊張を今に伝えています。まさに本地域は、古代からの日本の東と西の文化をつなぐ歴史のみちに位置するのです。

*日本の主要な地溝帯の一つで、地質学においては東北日本と西南日本の境目となる地帯。

箱根ジオパークを歩こう

鎌倉幕府開運コース

- 3 … コース案内
- 4 … 箱根火山の自然と歴史のあゆみ
- 6 … コースマップ
- 8 … 歴史的背景
- 9 … JR 湯河原駅 / 椿台・初島などの地形展望 / しとどの窟 (湯河原)
- 10 … 谷間の湯河原温泉 / 幕山を眺める
- 11 … 城山・土肥城址 / ピクニックグラウンド・真鶴半島などの地形展望 / 黒曜石
- 12 … 頼朝ゆかりの名石 / 城願寺・土肥実平の菩提寺
- 13 … 土肥一族墓所 / ビャクシンと七騎堂
- 14 … 湯河原立ち寄りスポット
- 15 … 年間イベントスケジュール・ガイド情報

ぶらっと箱根ジオパーク



コース案内

湯河原は箱根外輪山の南麓にあり相模灘に面しています。この地の外輪山の主体をなす湯河原火山噴出物は、侵食が進み、急峻な地形を造り、戦いに敗れた源頼朝が、追手の平家方から身を隠す大きな助けとなりました。

このコースは、湯河原駅からタクシー等でしとどの窟いっやの入口まで行き、下車後、徒歩でしとどの窟、城山、城願寺を經由して湯河原駅に戻る湯河原火山南東部を巡るものです。同時に頼朝および一族を挙げて頼朝に献身的に尽くした、郷土の豪族土肥実平等の足跡をたどります。

箱根火山の自然と歴史のあゆみ



南郷山からのパノラマ



幕山の梅林と柱状節理



三ツ石海岸



千条の滝



番場浦海岸の採石跡



箱根関所

400 万年前頃	40 〜35万年前頃	35 〜27万年前頃	27 〜23万年前頃	23 〜13万年前頃	13 〜8万年前頃	6.6 万年前頃	6 万年前頃	4 万年前頃	5500 年前頃	3000 年前頃	2900 年前頃	2000 年前頃	670 年(天智8年)	757 年(天平宝字元年)	783 年(延暦2年)	889 年(寛平元年)	1180 年(弘治承4年)	1300 年(正安2年)	1417 年(応永24年)	1504 年(永正元年)頃	1496 年(明応5年)〜 1504年	1590 年(天正18年)	1600 年初頭	1619 年(元和5年)	1680 年(延宝8年)	1802 年(享和2年)	1868 年(明治元年)	1883 年(明治16年)	1887 年(明治20年)	1888 年(明治21年)	1896 年(明治29年)	1900 年(明治33年)	1901 年(明治34年)	1904 年(明治37年)	1923 年(大正12年)	1930 年(昭和5年)	1934 年(昭和9年)	1950 年代	1952 年(昭和27年)	2012 年	2014 年	2015 年	2016 年
-------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	-------------	-----------	-----------	-------------	-------------	-------------	-------------	----------------	------------------	----------------	----------------	------------------	-----------------	------------------	------------------	---------------------------	------------------	-------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------	-----------------	------------	------------------	-----------	-----------	-----------	-----------

南足柄市が箱根ジオパークに編入
大涌谷で小規模な水蒸気噴火
箱根ジオミュージアム開館
箱根ジオパーク誕生
湯河原沸石命名
県天然記念物1979年指定
ウメボシインギンチャク・サンゴインギンチャク
丹那トンネル開通で東海道線湯河原へ
北伊豆地震 箱根離宮全壊
関東大震災
宮ノ下〜芦之湯〜箱根町間 車道開通
滝廉太郎「箱根の山」(原題箱根八里) を作曲発表
国府津〜箱根湯本間に電車開通(小田原電気鉄道)
早川〜熱海間に人車鉄道開通
国府津〜箱根湯本間に馬車鉄道開通
新橋〜国府津間鉄道開通
ドイツ人医師ベルツ、大涌谷に温泉治療所の建設を提案
塔之沢〜宮ノ下間車道開通
小涌谷温泉誕生
貴船大明神から貴船神社に改称
荻窪用水完成
東海道「箱根八里」に石畳が敷かれる
箱根関所開設
早川石丁場群で採石
大久保忠世、小田原城主となる 小田原城改修
豊臣秀吉、小田原攻め 石垣山一夜築城
北条早雲、小田原攻め 小田原城を支配下に置く
大森氏が小田原周辺を領地とする
精進池畔の磨崖仏・六道地藏の開眼供養
源頼朝、石橋山の合戦で敗れる
貴船神社(当時は貴宮大明神) 創建
万葉集編纂、巻14の東歌に湯河原温泉の歌が掲載
箱根神社創建
五所神社創建
神山水蒸気爆発
箱根火山最後の大規模噴火、冠ヶ岳の形成
神山山体崩壊、芦ノ湖誕生
羽根尾貝塚の形成
後期中央火口丘の形成と仙石原湖誕生
先神山の形成
東京軽石をもたらした爆発的噴火
鷹巣山溶岩、屏風山溶岩などの前期中央火口丘の形成
カルデラと外輪山の形成、大規模噴火と真鶴溶岩、幕山溶岩などの噴出
明神ヶ岳、米神溶岩などの箱根成層火山群 独立単成火山群の形成
金時山、明星ヶ岳などの箱根成層火山群の形成
箱根火山の活動のはじまり(天昭山溶岩、畑宿溶岩など)
箱根火山の基盤岩(早川凝灰角礫岩)の形成



早川石丁場群

は、このガイドパンフのコースで見ることができます。



カツラゴ海岸の真鶴溶岩



夕日の滝



湯河原火山噴出物がつくる不動滝



小田原城



飛龍の滝



矢倉岳

白銀林道(一般車両通行禁止)



箱根ジオパークを歩こう

鎌倉幕府開運コース

大石ヶ平

自鑑水

南郷山 610m

白銀林道(一般車両通行禁止)

さつきの郷

さつき 湯河原美化センター
約5万株

湯河原美化センター

幕山 626m

一の瀬

湯河原梅林
(梅約4,000本)

管理棟
幕山公園

南郷山
ハイキングコース

湯河原町総合運動公園
「ゆめ公園」

3 しとどの窟

2 椿台

4 しとどの窟から
城山山頂へ

5

6

頼朝ゆかりの石

あじさいの郷
(育成中)

7

城山(563m)土肥城址

ピクニックグラウンド

丹浅間神社

尾崎山 202m

人間国宝美術館

ゆとろ嵯峨沢の湯

屏風岩

不動滝

9 湯河原立ち寄りスポット
(湯河原温泉・不動滝)

藤木川

だるま滝

光風荘

「温泉場 ぶらりお休み処」

こごめの湯

熊野神社

万葉公園

城願寺
一土肥実平の菩提寺

駅前観光案内所

8

1 湯河原駅

図書館

福浦IC

135

八幡神社

湯河原温泉入口

千歳橋

浄水センター

千歳川

英潮院

小道地藏

吉祥院

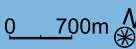
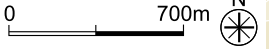
湯河原町ヘルシープラザ

素鷲神社

宗徳院

湯河原海岸
(湯河原海水浴場)

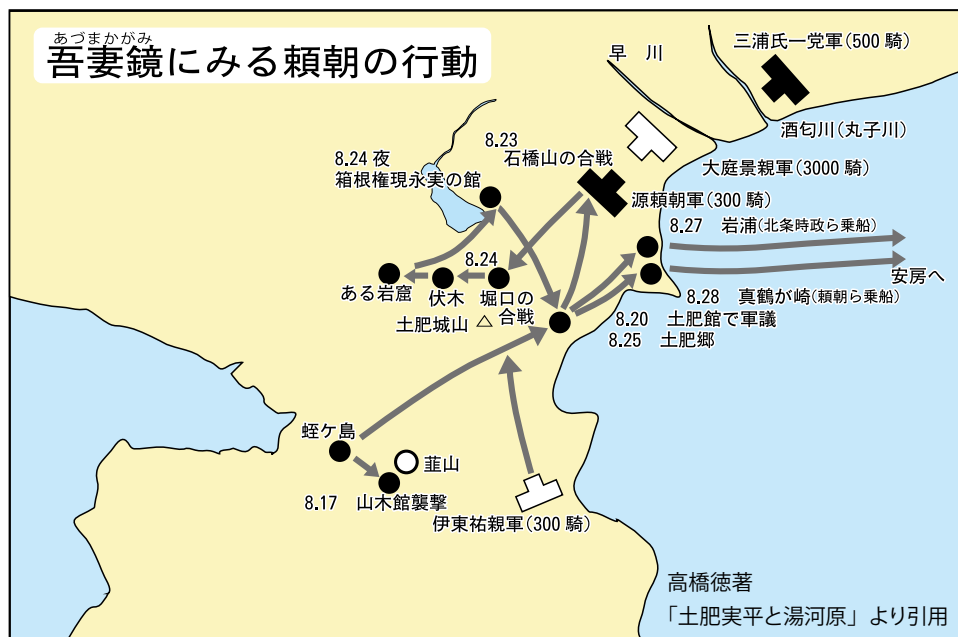
真鶴道路「真鶴ブルーライン」



1

— 鎌倉幕府誕生の夜明け前 —

平治の乱に破れ、伊豆に流されていた源頼朝は、治承4年(1180)8月17日、北条時政やこの地の豪族、土肥実平等の助力を得て、ついに平家打倒の兵を挙げました。伊豆の目代・山木兼隆を破って初戦を飾りましたが、石橋山の合戦では自軍の十倍の兵力を有する大庭景親軍に大敗しました。頼朝は主従わずか8名で山中に逃れ、この湯河原町周辺を領地とする土肥実平・遠平父子の案内でしとどの窟の洞窟や大木の洞に隠れて敵の追手をかわしました。この時敵将梶原景時に発見されましたが、景時はわざと見逃し頼朝を助けたという逸話も残っています。その後、真鶴が崎から実平が手配した小舟で安房国に渡って再起を図りました。敗れたとはいえ、頼朝は源氏嫡流の御曹司、坂東の武者たちが次々と馳せ参じ、敗戦からわずか1か月半後の10月7日、大軍を率いて堂々鎌倉に入り、着々と勢力を固めていきました。



1 JR 湯河原駅

— 背後の山は侵食された湯河原火山 —



駅は土肥実平(P12 参照)の館跡と言われている小高い地にあります。

駅から見える湯河原の街並みは新崎川と千歳川がつくる扇状地の上であり、駅から海岸に向かって斜面が続きます。駅前広場の設計・監理は著名な隈研吾建築都市設計事務所によるものです。

ここから、タクシーで出発!



ジオ旅のはじまり
JR 湯河原駅



開業時の湯河原駅



現在の湯河原駅

湯河原駅は関東大震災の翌年大正13年(1924)国鉄熱海線の駅として開業しました。それまで小田原-熱海間を結んでいたのは、最初は人車鉄道、その後は軽便鉄道でした。昭和9年12月、丹那トンネルの開通により待望の東海道本線が湯河原にきました。



人車鉄道

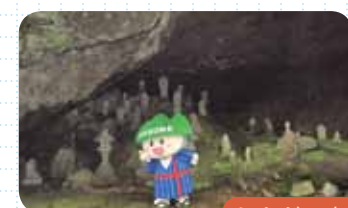


軽便鉄道

橋台(しとどの窟入口)からの展望
伊豆大島と初島



初島の平らな地形は海岸段丘(約10万年前)なんだ



しとどの窟

2 橋台(しとどの窟入口)

— 初島などの地形展望 —



初島を昔源実朝(3代将軍)が二所詣で、箱根神社から十国峠を越え伊豆山神社へ行く途中、「箱根路をわが越えくれば伊豆の海や沖の小島に波の寄るみゆ」(金槐和歌集)と謡いました。条件が良いと伊豆諸島の火山を見ることができ、初島の後ろが伊豆大島です。成層火山で山頂部にはカルデラと中央火口丘の三原山があります。右側の急斜面は外輪山西側の斜面で2013年に土砂災害が発生した場所です。伊豆大島の右側には利島が見えます。利島は成層火山で活火山ですが、有史での噴火記録はありません。

3 しとどの窟



橋台から徒歩20分。このあたりは桜郷と呼ばれ、関東山伏発祥の地で山伏達の行場でもありました。深く侵食された谷の中に、石橋山の合戦の後、源頼朝主従が身を潜めたしとどの窟があります。

解説にあるマークの見方



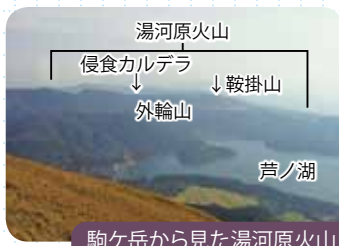


侵食の進んだ湯河原火山

湯河原火山の火口は今の広河原付近にあったと言われていたが、鞍掛山付近にも火口があった可能性もあります。



湯河原の地形概念図



駒ヶ岳から見た湯河原火山

湯河原火山の西側斜面は、比較的保存が良い。



幕山の柱状節理

2~3月は梅が見頃です
ぜひお越しください!

周辺の地質は湯河原火山^{*}の溶岩と火砕物が交互に堆積し、窟は粗大な火砕物からなる火山角礫岩からなります。窟の成因は侵食の可能性もありますが、人為的な影響もあるかもしれません。洞窟内には61体の立像、座像の観音像があり、この巖窟を含む付近の地が、近郷の庶民の観音信仰の聖地でもあったことを物語っています。ここから徒歩30分橋台に戻り、案内に従って今度は城山山頂をめざします。



4-1 谷間の湯河原温泉



城山山頂上への尾根道の右側の谷間が湯河原温泉のある場所です。箱根火山の外輪山形成期(40~23万年前)に形成された湯河原火山は海拔1,000m程の高さがあったと考えられています。その火口付近は大きく侵食され侵食カルデラができ、更に侵食が進み、良質の温泉が湧き出しました。これが湯河原温泉で、万葉公園から不動滝付近の藤木川沿いに分布します。

4-2 幕山を眺める



尾根道の左側には幕山(626m)が見えます。幕山の岩壁にはマグマが冷却固結する際に収縮して出来た柱状節理が見えます。岩壁の下部には崩落物が堆積してできた急斜面があり、そこは湯河原梅林となっています。幕山はカルデラ形成期(23~13万年前)の約15万年前に形成された単成火山(溶岩ドーム)で、真鶴半島が出来た時期とほぼ同じです。単成火山とは、一連の一回の噴火で形成された小型の火山のことです。

^{*}湯河原火山体を覆う白糸川溶岩グループに属するという説もあります。

5 城山 (563m) 土肥城址



城山は侵食された湯河原火山^{*}の一部です。伊豆半島、相模湾、真鶴半島、遠く三浦半島、房総半島が眺望できます。頂上には土肥実平の末裔小早川四郎男爵揮毫の碑(昭和11年建立)がありますが、城が作られた時代が土肥氏の時代という点には疑問があり、小田原城主が北条氏の頃の古道を押さえる望哨(物見、見張り)であったのではないかと考える説が有力です。

6-1 ピクニックグラウンド

—真鶴半島などの地形展望—



城山山頂から10分でピクニックグラウンドにつきます。ここでは地形を観察します。新崎川と千歳川の間には湯河原の市街地が広がっていますが、かつては一面水田でした。昭和30年代半ばに、東海道新幹線のトンネル工事の残土により埋立てられ、区画整理が行われ大きく変わりました。同時にこの残土により国道135号線沿いの海岸が埋め立てられ、現在では新たな商業施設等が集まっています。新崎川を境に手前が湯河原火山、その先の真鶴半島を含む部分がカルデラ形成期の単成火山群の分布域です。真鶴半島の付け根が湯河原町福浦で漁港があります。漁港の先がカツラゴ海岸ジオサイトで、真鶴岬溶岩が、その下の関東ローム層に接触している部分が観察できます。

6-2 黒曜石 (黒曜岩)

新崎川右岸側の尾根先端付近に尾崎山(202m)が見えます。この部分は湯河原火山ではなく、30万年程前の単成火山(鍛冶屋流紋岩)で、中腹付

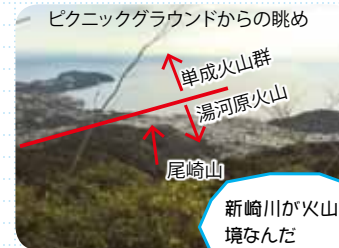


城山山頂



すずりいし 硯石

頼朝が踵で蹴って跡がついたと言われている石で、1930年頃まで雨乞いに使用されていたようです。城山山頂手前にあります。



ピクニックグラウンドからの眺め

新崎川が火山の境なんだ



黒曜石だよ

鍛冶屋流紋岩



頼朝にまつわる
伝説で多い
なあ〜



立石



兜石



駅前の土肥実平夫妻像

源頼朝旗挙げ800年を記念し、昭和56年実平館のあった駅前に建立されました。実平は一族を率いて頼朝を助け、その妻は窟に隠れた頼朝主従に情報と食糧をもたらし、頼朝主従の安房への脱出の道を開きました。

近から黒曜石が産出されました。黒曜石はマグマが急速に冷却してガラス質になったものです。かつては箱根町畑宿と共に箱根山系黒曜石の一大産地として南関東、東海地方に広く供給されていました。

この黒曜石は、縄文時代の包丁、鍬の材料としても使われました。城願寺へと下る道沿いの石垣には、鍛冶屋流絞岩が見られ、中には黒曜石に近いような岩質のものもあります。

7 頼朝ゆかりの名石



石を見るためには、登山道から案内に従って脇へ下ります。これらの石は、転石または溶岩が長年の侵食を受け、堅い部分が残っているものと思われる。

立石は源頼朝が運試しにこの石を投げて垂直に立てば頼朝が天下を取る時が来るが、もし立たずに倒れるならばこのまま滅びるとされた石で、投げた石は見事に山の中腹に立ち、運が開け鎌倉幕府を築いたと言われています。

兜石は一見兜の形をしていて、源頼朝が合戦に破れ土肥の楢山に逃げる途中、休憩を取る為に兜を脱いでこの石の上に置いたと言われています。

8 城願寺

—土肥実平の菩提寺—



ピクニックグラウンドから城願寺までは、1時間ほどかかります。

城願寺は土肥実平他一族の菩提寺です。

土肥実平は桓武平氏の末裔と言われ、中村郷(現在の中井町と小田原市)の中村庄司宗平の次男ですが、土肥郷(湯河原町、真鶴町)の豪族となり、頼朝の決起に際し所領安堵を期待し一族を挙げて

頼朝に賭けました。子孫には後の豊臣秀吉の五大老となる小早川隆景(毛利元就の3男で養子)がいます。

8-1 土肥一族墓所



正面の五輪塔の中央が実平の墓、左が奥方で、右が長男遠平の墓です。鎌倉時代は仏教が大衆化した時代で、石造美術の黄金時代でもあります。ここでは南北朝時代にかけての各種墓型が揃い、神奈川県指定文化財となっています。墓の石材は箱根火山の安山岩で、墓の形により複雑な加工を要する部分には多孔質で粘りのある後期中央火口丘溶岩を、また四角く切り出すような石には、節理に沿って割れやすい外輪山溶岩を使っているようです。

8-2 ビャクシン(柏楨)と七騎堂



境内の**ビャクシン**は樹齢850年、国の天然記念物で、神奈川県の名木100選にも選ばれている名木です。別名イブキと呼ばれ、特に寺社の境内に多く植えられています。

七騎堂は源頼朝と共にしとどの窟に隠れ頼朝を最後まで守り抜いた土肥実平等武将達の木像を収めています。窟に隠れたのは8名ですが、実平の長男小早川遠平だけは安房へは同行せず、伊豆山近くまで来ていた頼朝の妻政子に、頼朝の消息を伝えに行ったので七騎には含まれていません。

ここから湯河原駅まで徒歩10分、駅前の土肥実平夫妻像で鎌倉幕府開運コースは終わりです。



腰掛石

城願寺境内にあります。腰掛石と云われる石は日本各地にあります。頼朝に関係したものは、他に三嶋大社や伊豆山神社にもあります。



土肥一族の墓所



ビャクシン



七騎堂内部

休館日、運休日は各施設へお問い合わせ下さい

9-1 不動滝



不動滝

夏目漱石の未完の作「明暗」に登場。湯河原沸石という鉱物が発見された場所で、滝周辺の地層は箱根火山の基盤をなす新第三系の湯ヶ島層群とされていますが、最近では湯河原火山噴出物という見解が出されています。温泉場は湯河原火山を侵食した深い谷にあり、このように滝が随所にあります。かつては天野屋、翠明館等がこの水力を活用した自家用水力発電所を持っていました。湯河原駅よりバス 20 分。

9-2 町立湯河原美術館



湯河原沸石

建物の前身は老舗旅館天野屋で、夏目漱石も滞在しました。現代日本画家の平松礼二の常設館や公開アトリエ、竹内栖鳳、安井曾太郎をはじめとした湯河原ゆかりの作品を展示しています。足湯に入れるカフェも併設しています。万葉公園、不動滝より徒歩 10 分。休館日は水曜日。

ちょっと寄り道



MUSEUM CAFE 「and garden」

町立湯河原美術館内にある、豆腐・ゆば専門店「湯河原十二庵」がプロデュースするヘルシーなカフェです。美術館の庭園に面したテラス席には、湯河原の温泉をひいた足湯もあります。芸術鑑賞のあと、ゆったりとしたひと時をお過ごしください。

9-3 万葉公園



MUSEUM CAFE 「and garden」

万葉集に謡われた場所として命名され、日本の歴史公園 100 選にも選ばれている公園です。湯河原の名はこの地区の小字名で、その昔は文字通り温泉が河原から湧いていました。温泉の効能では評価が高く、江戸時代の温泉効能番付では東の小結にランク付けされています。湯河原駅よりバス 16 分。

令和3年4月に自然と温泉、歴史文化を楽しむ自然公園として、リニューアルオープンします。



万葉公園 万葉洞門

もっと知りたい！

藤田屋前の源泉櫓と護岸に架かる送配湯管

温泉はエアリフトポンプで汲みあげています。櫓はパイプに付着した温泉成分を取り除くのに使い、護岸に架かるパイプは送配湯管で、資源の枯渇対策の為、町で温泉の集中管理をしています。



光風荘 (2.26 事件資料館)

万葉公園隣り、土日祭日 10 時～15 時開館、入館は 14 時半までに。入口の石碑は事件発生 70 周年記念で建立、麻生太郎元総理大臣揮毫、館内説明あり、所要約 20 分です。開館日以外の参観は事前予約要。



ガイドさんとジオ旅に行こう！

✓ 時間が無くてもご安心
立ち寄りスポット散策で温泉街の雰囲気

✓ 多彩なウォーキングコース
梅の宴の時には、幕山の麓の湯河原梅林散策がおすすめです。ハイキングでは、幕山、南郷山の人気があります。



ガイドの様子



梅山最高地点からの眺め

湯河原まちづくりボランティア協会 (湯河原町役場内)

Tel 0465-63-2111 URL <https://www.town.yugawara.kanagawa.jp/kyoiku/volunteer/>

- 箱根・小田原・真鶴・南足柄ガイド
- 箱根観光ガイド協会 (箱根町観光協会内) Tel:0460 (85) 5443
 - 箱根ボランティア解説員連絡会 (箱根ビジターセンター) Tel:0460 (84) 9981
 - NPO 法人 小田原ガイド協会 Tel:0465 (22) 8800
 - 真鶴観光ボランティアガイド (真鶴町観光協会内) Tel:0465 (68) 2543
 - 南足柄ジオガイドの会 (南足柄市役所内) Tel:0465 (73) 8001



※祭、イベントの開催は、変更される場合があります。

- 1月 農林水産まつり みかんサミット
1月中旬～下旬
- 2月 湯河原梅林「梅の宴」
2月上旬～3月中旬
- 4月 源頼朝旗挙げ武者行列
4月第一日曜日
- 5月 湯かけ祭り
5月第四土曜日
さつき郷
5月下旬～6月中旬
- 7月 湯河原海水浴場
7月中旬～8月下旬
- 8月 やっさ祭り、花火大会
8月上旬
- 10月 みかん狩り
10月上旬～12月下旬
ハロウィン
10月下旬



箱根ジオパーク拠点施設
湯河原町立図書館

足柄下郡湯河原町土肥 1-4-13
電話 0465-63-4155
<http://www.town.yugawara.kanagawa.jp/kyoiku/library/>
開館時間 9:30～18:00
休館日 月曜日、毎月1日ほか、ホーム
ページをご確認ください
図書資料のみ所蔵、郷土史関係資料あります。

駅前観光案内所



観光ご案内、手荷物のお預かりを承ります。
TEL (0465) 63-4181 8:30～17:15
(元旦を除き無休)